2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	・アジア地域研究科における教育研究の成果は、大東文化大学紀要（社会科学、人文科学)、大東アジア学論集等の大学、大学院の機関紙やその他の外部の学会誌、および著書の刊行をとおして社会に還元している。また、アジア地域研究科、国際関係学部および現代アジア研究所が連携して国際会議を開催している。平成 25 年度は、11 月に９０周年事業の一般として、「台頭する中国とアジアの新秩序」をテーマに、海外から５名の研究者を招聘して東松山と板橋の両キャンパスにおいて国際会議を開催した。また、12 月にはインドのバンガロールにおいて現地のビジネススクールと共同で、「グローバルビジネスの異文化経営」をテーマに７０余名の報告者を集めての国際会議を開催した。今後も、定期的に国際会議等をとおしての国際交流を推進する計画である。 ・アジア地域研究科の教員は講義と演習に自らの研究成果を十分に活かしているとともに、公開講座や出前講義、市民大学などを通して、教育研究の成果を紹介し、社会への還元に努めている。
8-3	アジア地域研究科内部に国際交流委員会を設置し、社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っている。

【効果が上がっている事項】

8-2	アジア地域研究科内部の国際交流委員会が活発に機能しており、平成 25 年度は２つの国際会議を開催し、教育研究成果の社会還元に貢献できた。海外での国際会議の共催も実現でき、教育研究成果の還元は直接的に海外にまで及んだ。
8-3	

【改善すべき事項】

8-2	
8-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「台頭する中国とアジアの新秩序」(国際シンポジウムプログラムおよび報告要旨集:別添);インドでの合同会議のプログラム(別添)他

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	8-2　国際会議の継続的な実施	本研究科と国際関係学部、アジア研究所共催の第二回国際会議を成功させる。	→					
14 年度目標	8-2　国際会議の開催案を検討する	検討の進捗状況を研究科委員会に報告する。	→	S				